

第423回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

- 1 開催日時 2025年11月10日（月）
- 2 開催場所 テレビ新潟本社
- 3 委員総数 8人 出席委員 8人

出席委員

小原 清文 委員長	石井 宏明 委員
本宮 宏美 委員	迫 一成 委員
小山 厚子 委員	杉原 名穂子 委員
浜田 泰宏 委員	

書面での出席

大久保 千春 委員

会社側出席者

代表取締役社長	正力 源一郎
取締役コンテンツ本部長	河野 修三
コンテンツ戦略局長兼番組審議会事務局長	小林 健
報道制作局長	中川 幹子
報道制作局次長	須山 司
番組ディレクター・アナウンス部長	内田 拓志
事務局	鈴木 英門 坂上 寿史

4 議 題

1) 番組合評

2) 「ドキュメント新潟 元軍医の遺言 特攻と覚醒剤」

2025年9月14日（日） 16：50-17：20

3) 会社報告

- ① 10月の視聴者の意見 （報告：番組審議会事務局）
- ② 講じた措置、議事概要の公表 （報告：番組審議会事務局）
- ③ 訂正放送、取り消し放送の有無 （報告：番組審議会事務局）
- ④ 2025年度上半期種別報告 （報告：番組審議会事務局）

4) その他

5 審議の概要

会社側からは「この番組は戦後80年という節目に向け、特攻と覚醒剤を題材に取材を進めました。取材の開始から放送までのおよそ1年間に、お話を聞いた方のうち4人が亡くなりました。戦後80年という時の流れで、戦争当事者の声を聞くことが年々難しくなると改めて感じました。番組では、事実をバランスよく積み上げることで、当時の常識をストレートに表現しようと意識しました。その中で番組をご覧いただいた方々には、戦争起きれば、どのような社会になり、どのような常識になるのかということを感じてもらえればと制作しました」という趣旨の説明があった。

(委員の意見)

- 戦争という重いテーマを、元軍医の遺言という個人の証言を軸にして伝えた、本当に意義深い番組だった。
- 特攻と覚醒剤という、これまであまり知らなかった側面に焦点を当てたことで、新しい問題意識が生まれたのではないかと感じた。
- 覚醒剤がどのように軍に導入されたかなどの背景情報が、もう少しあるとより理解が深まったのではないか。
- 30分があっという間に感じられてしまうほど引き込まれた。さらに内容は番組尺以上の濃さだった。
- 今回得られた証言を番組・映像として残すことは、歴史を風化させないために大変意義がある事であると感じた。
- 知らなかった事実が多くあり勉強になった。当事者の証言で伝えられていたので、よりリアルに重く伝わってきた。
- ナレーションが過度に感情的にならない冷静なトーンで事実を伝えていたことが、番組全体の信頼性や重厚感をより深めていた。
- 戦争当事者たちから大切な証言を伝えられた側が、今後はどのようにバトンをつないで次へ伝えていくのか。その大切さを改めて感じた。
- 全国に足を運んで証言を集めたディレクターの強い意欲が感じられた。とても質の高い番組だった。
- 資料映像とインタビューの組み合わせのバランスが良く、歴史の重みと、人間感情の側面が両立できていて素晴らしかった。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

10月……167件

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会の開催日(2025年10月20日)から、
昨日(2025年11月9日)まで総務省に届け出た
訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見(前回審議会)に対してとった措置

1) 前回第422回審議会では、

「そんなわけで新潟(ここ)にいます。」を審議いただき、委員の意見は議事概要にて記者、制作スタッフ、社内に周知しました。

2) 番組審議会議事録を全社員、スタッフに共有しました。

8 今回の第423回放送番組審議会の公表

1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支局の県内事業所に 議事概要の書面を準備します。

2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。

3) T e N Yホームページに議事概要を掲載します。

9 参考事項(委員への配布資料)

- ・第422回番組審議会議事録
- ・10月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・BPO報告(NO. 282)
- ・T e N Y 2025年度上半期 番組種別時間報告 以上